

燕山荘は 1921 年 7 月に赤沼千尋が北アルプス燕岳 (2763m) に「燕の小屋」を建設し、1930 年に「燕山荘」と改名され、再来年 100 年を迎える。この十年、登山者のアンケートでは「泊まってみたい山小屋全国第 1 位」であり「泊まってよかった山小屋全国第 1 位」と評されている。

燕山荘は他に、有明荘、合戦小屋、大天荘、ヒュッテ大槍を有し、北アルプス表銀座においてオーナーの人柄もあり大変人気のある小屋で、夏の集中期にも約 600 名の収容能力を持つ。



燕山荘 HP より

2 北アルプスのトイレと取り巻く環境の厳しさ

燕山荘のトイレ対策が一番遅れているかもしれない。4 軒あるグループの山小屋のうち 3 件で取り組んではいるものの良い方法がない。大きな小屋は、一度実施したら簡単にやり直しができないのでどれがパーフェクトかの検証が絶えず必要だ。燕山荘での難しさは、水のない所、電気のない所、酸素の少ない所で、低温の山のテッペンで処理しなければならないことである。標高 2,500m 以上では木は育たずハイマツの世界で、さらに上部は雪が全くつかず微生物には苛酷となる。ヒュッテ大槍や有明荘は補助金を活用し、トイレの整備が既に完了している。燕山荘は 86 年前に材木を担ぎ上げ完成したが、屋根からの雨水など直接流れ出るとまたたく間に地面が侵食されてしまう（水は 340m 下からポンプアップ）。3,000m 級の山としては世界厳しい北アルプスの冬の世界は、 -20°C 、常に 15~20m 以上の風、北からの寒気が日本海の海水を一気に水蒸気として上昇させ、大量の雪となる。外界の木は細胞凍結で育たず、雪ノ下だけが -1°C ~ 4°C の世界という環境である。一年で最も雪の多い時期は 4 月下旬で、5 月になると暖くなり降雨のあとはパリパリのアイスバーン状態でアイゼンが必携となり、6 月中旬までは雪が降り冬山である。下旬になるとライチョウの母鳥は自らの腹の毛をむしり、肌を直接卵にあてて雛をかえす。7 月上旬には桜も咲き、中・下旬にかけすべての花が咲く。オーバーユースが集中するのは 7~9 月の 3 か月の土曜日と連休であるが、少しでも客が分散するよう、月~木はシニア、金~日は若い層の利用を薦めている。10 月上旬には雪が降り冬山を迎え、11 月 25 日に営業終了となる。冬山登山は日本だけの山登り文化であり、そのクライミング技術は欧州などで高く評価されている。是非冬山の良さを味わってほしい。1992~3 年ころは小屋の周りにゴミが捨てられクマの出没が頻繁にあった。当時ゴミの持ち帰りをお願いしても改善されなかったが、小屋の内・外の清掃を徹底し、ゴミの持ち帰りの登山者の協力により、ゴミ・生ゴミがなくなって、テン、カラス等の捕食動物や熊の出現がなくなったため、雷鳥が周りに増え、野生生物との共存がはかられている。大天荘の新しいトイレ (2013 年) は入口 2 か所とし、外からの登山者などと小屋内からの入口に分けられ、トイレの中から紙は外に出し、まとめてヘリで回収する。小便はポリライトを使い、トイレには入れない。合戦小屋のトイレは樹木で囲い (外国人対策で必要)、冬は風で吹き荒

れるため、中に更衣室を設けた。樹林限界にあり発汗後の急な冷え防止対策として好評である。し尿はいずれもヘリで回収している。スイスのモンテローザヒュッテでは、山小屋からのし尿と食堂などからの雑排水と一緒に 30φ位のパイプで下まで移送し処理している (SAT 方式)。燕山荘をはじめ大天荘、合戦小屋、ヒュッテ大槍、いずれもヘリで回収されるが課題は現在ヘリが動かない状況にあることだ。ヘリの確保は①生活必需品の搬送優先でし尿は後回し②パイロット不足で搬出業者がいない③国交省の運航規制 (8 hr/日) により計画通りにならないなど、昨年合戦小屋では大変苦勞をした。現地で分解する方法が良いと思うのだが、良い方法が見つかっていない。燕山荘では以前、テントに燃焼式トイレを入れたが、高温焼却ではないため後に撤去させられた。地球はきれいな星であるが 4 年前から 11 月 24 日の同じ日に積雪がゼロの状態が続き、白く保護色となった雷鳥は逆に天敵の目にさらされている。蔵王のモンスター (アオモリトドマツ) が全滅状態、松本や安曇野のマツ枯れ拡大を目にし、水・空気を大切に山の上まで及ばないようにしたいと考えている。

以上